

## 血液透析患者における自殺

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○船越 哲 藤原久子 林田めぐみ 原田孝司 橋口純一郎

### 【はじめに】

維持透析患者の自殺率は、一般人口に比べて高いと国内外で報告されている。一方、多くの自殺者が精神科医を受診せずに最期を迎えており、透析施設はプライマリケアの場として自殺予防の意識をもつ必要があるのかも知れない。法的機関が介入した自殺例 2 例を考察を加えて報告する。

### 【症例 1】

59 歳男性、透析歴 4 年、生活保護。透析導入前から介護をしていた認知症の実父が他界「もういつ死んでもいい」と話していた。定期の透析の後、自分の車で岸壁から海に突っ込んで死亡した。

### 【症例 2】

57 歳男性、透析歴 26 年、自営業、独身。自殺の年の 1 月に初めて、「長期透析で変形した身体を、哀れみの目で見られて辛かった」との発言あり。自己管理はずっと良好であったが、自殺直前の血液検査で、カリウムが 7.0 という異常高値であった。翌日に自宅浴室で、シャントを自ら刃物で切り失血死した。

### 【考察】

高頻度で長時間の治療に訪れる血液透析患者においては、スタッフからの患者観察のチャンスが多い。患者の発言など、「自殺のサイン」を意識することは重要と考える。